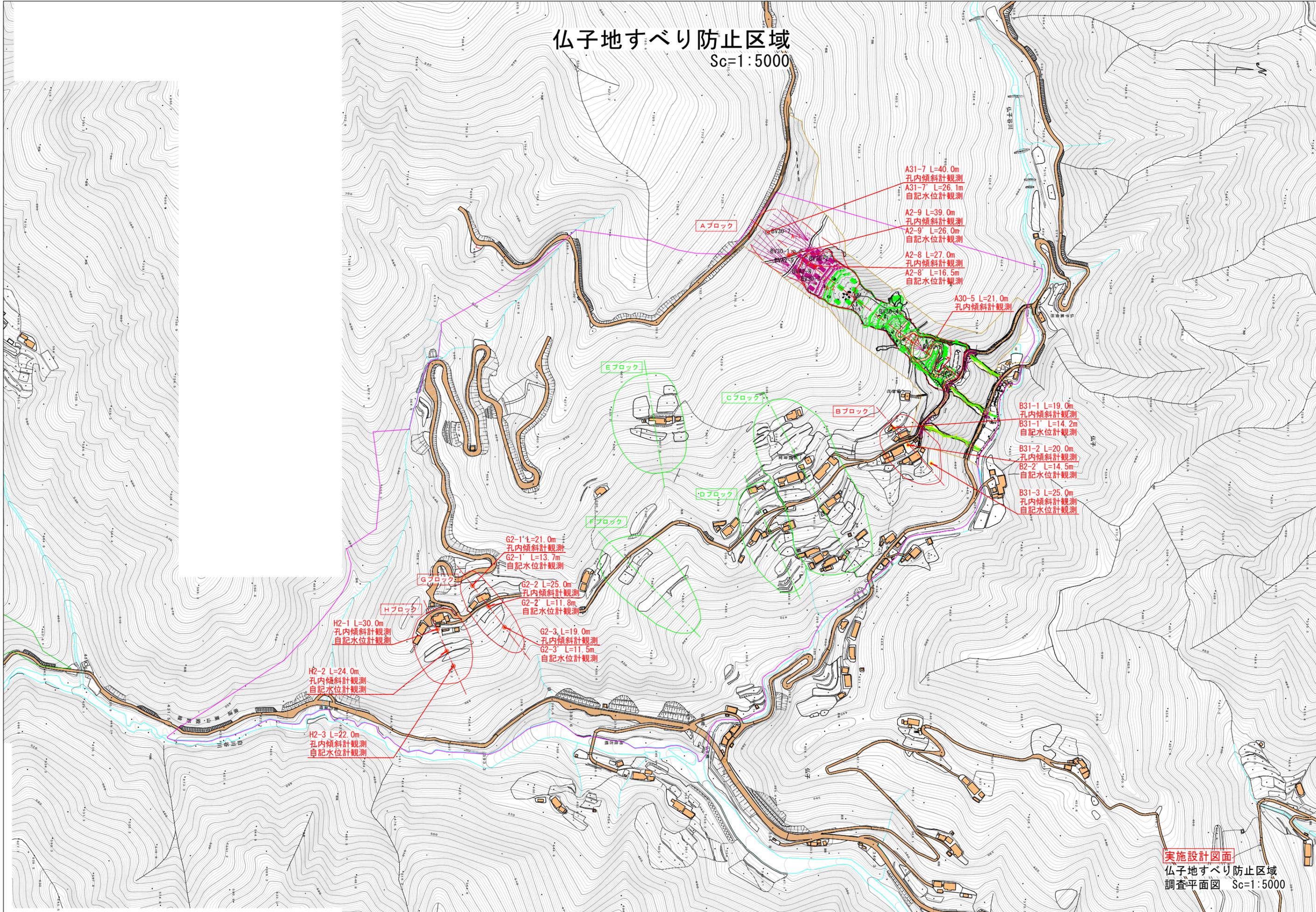
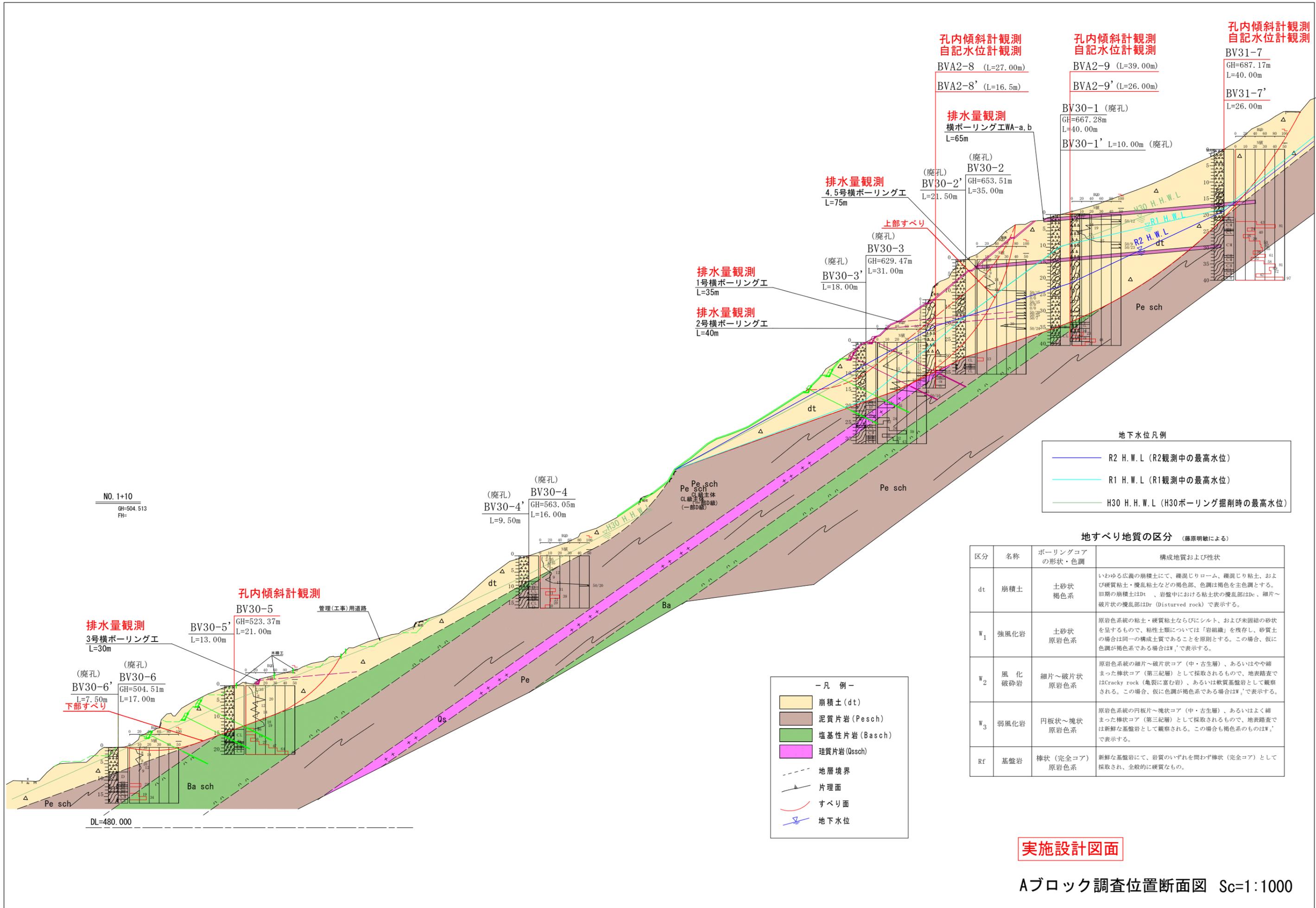


仏子地すべり防止区域

Sc=1:5000



実施設計図面
仏子地すべり防止区域
調査平面図 Sc=1:5000



NO. 1+10
GH=504.513
FH=

排水量観測
3号横ボーリング工
L=30m

孔内傾斜計観測

BV30-5
GH=523.37m
L=21.00m

(廃孔)
BV30-6'
L=7.50m

(廃孔)
BV30-6
GH=504.51m
L=17.00m

(廃孔)
BV30-4
GH=563.05m
L=16.00m

(廃孔)
BV30-4'
L=9.50m

排水量観測
1号横ボーリング工
L=35m

排水量観測
4,5号横ボーリング工
L=75m

(廃孔)
BV30-3
GH=629.47m
L=31.00m

(廃孔)
BV30-3'
L=18.00m

(廃孔)
BV30-2
GH=653.51m
L=35.00m

(廃孔)
BV30-2'
L=21.50m

排水量観測
横ボーリング工WA-a, b
L=65m

BV30-1 (廃孔)
GH=667.28m
L=40.00m

BV30-1' L=10.00m (廃孔)

孔内傾斜計観測
自記水位計観測
BVA2-9 (L=39.00m)

BVA2-9' (L=26.00m)

孔内傾斜計観測
自記水位計観測
BVA2-8 (L=27.00m)

BVA2-8' (L=16.5m)

孔内傾斜計観測
自記水位計観測
BV31-7
GH=687.17m
L=40.00m

BV31-7'
L=26.00m

地下水凡例

	R2 H. W. L (R2観測中の最高水位)
	R1 H. W. L (R1観測中の最高水位)
	H30 H. H. W. L (H30ボーリング掘削時の最高水位)

地すべり地質の区分 (藤原明敏による)

区分	名称	ボーリングコアの形状・色調	構成地質および性状
dt	崩積土	土砂状 褐色系	いわゆる広義の崩積土にて、雑混じりローム、雑混じり粘土、および硬質粘土・攪乱粘土などの褐色部、色調は褐色を主色調とする。旧期の崩積土はDt、岩盤中における粘土状の攪乱部はDe、細片〜破片状の攪乱部はDr (Disturbed rock) で表示する。
W ₁	強風化岩	土砂状 原岩色系	原岩色系の粘土・硬質粘土ならびにシルト、および未固結の砂状を呈するもので、粘性土類については「岩組織」を残存し、砂質土の場合は同一の構成土質であることを原則とする。この場合、仮に色調が褐色系である場合はW ₁ 'で表示する。
W ₂	風化 破碎岩	細片〜破片状 原岩色系	原岩色系の細片〜破片状コア (中・古生層)、あるいはやや締まった棒状コア (第三紀層) として採取されるもので、地表踏査ではCracky rock (亀裂に富む岩)、あるいは軟質基盤岩として観察される。この場合、仮に色調が褐色系である場合はW ₂ 'で表示する。
W ₃	弱風化岩	円板状〜塊状 原岩色系	原岩色系の円板状〜塊状コア (中・古生層)、あるいはよく締まった棒状コア (第三紀層) として採取されるもので、地表踏査では新鮮な基盤岩として観察される。この場合も褐色系の場合はW ₃ 'で表示する。
Rf	基盤岩	棒状 (完全コア) 原岩色系	新鮮な基盤岩にて、岩質のいずれかを問わず棒状 (完全コア) として採取され、全般的に硬質なもの。

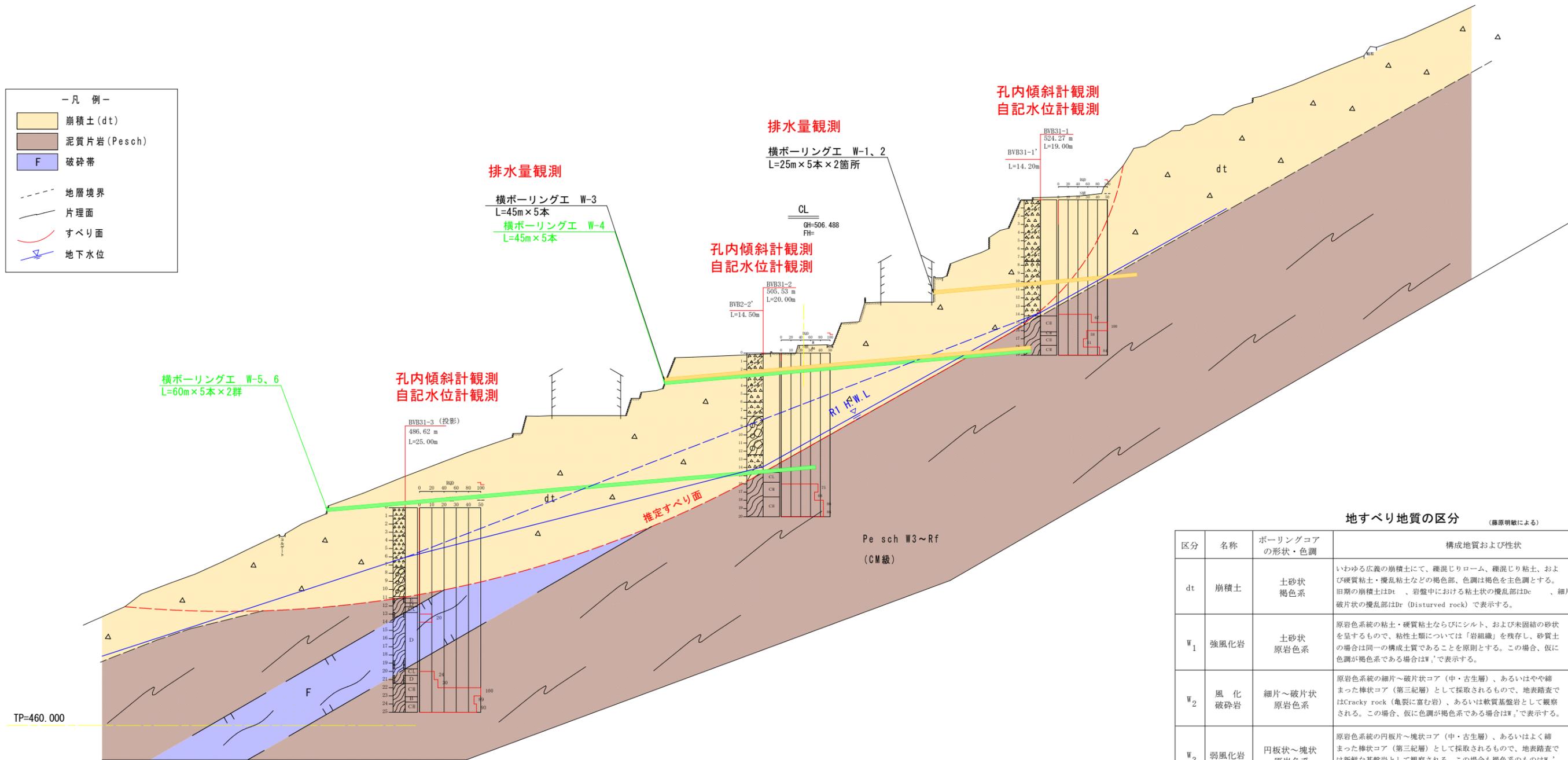
凡例

	崩積土 (dt)
	泥質片岩 (Pes sch)
	塩基性片岩 (Bas sch)
	珪質片岩 (Qs sch)
	地層境界
	片理面
	すべり面
	地下水位

実施設計図面

Aブロック調査位置断面図 Sc=1:1000

- 凡 例 —
- 崩積土 (dt)
 - 泥質片岩 (Pesch)
 - F 破碎帯
 - 地層境界
 - 片理面
 - すべり面
 - 地下水位



地すべり地質の区分 (藤原明敏による)

区分	名称	ボーリングコアの形状・色調	構成地質および性状
dt	崩積土	土砂状 褐色系	いわゆる広義の崩積土にて、礫混じりローム、礫混じり粘土、および硬質粘土・攪乱粘土などの褐色部、色調は褐色を主色調とする。旧期の崩積土はDt、岩盤中における粘土状の攪乱部はDe、細片～破片状の攪乱部はDr (Disturbed rock) で表示する。
W ₁	強風化岩	土砂状 原岩色系	原岩色系の粘土・硬質粘土ならびにシルト、および未固結の砂状を呈するもので、粘性土類については「岩組織」を残存し、砂質土の場合は同一の構成土質であることを原則とする。この場合、仮に色調が褐色系である場合はW ₁ 'で表示する。
W ₂	風化 破碎岩	細片～破片状 原岩色系	原岩色系の細片～破片状コア (中・古生層)、あるいはやや締まった棒状コア (第三紀層) として採取されるもので、地表踏査ではCracky rock (亀裂に富む岩)、あるいは軟質基盤岩として観察される。この場合、仮に色調が褐色系である場合はW ₂ 'で表示する。
W ₃	弱風化岩	円板状～塊状 原岩色系	原岩色系の円板状～塊状コア (中・古生層)、あるいはよく締まった棒状コア (第三紀層) として採取されるもので、地表踏査では新鮮な基盤岩として観察される。この場合も褐色系の場合はW ₃ 'で表示する。
Rf	基盤岩	棒状 (完全コア) 原岩色系	新鮮な基盤岩にて、岩質のいづれを問わず棒状 (完全コア) として採取され、全般的に硬質なもの。

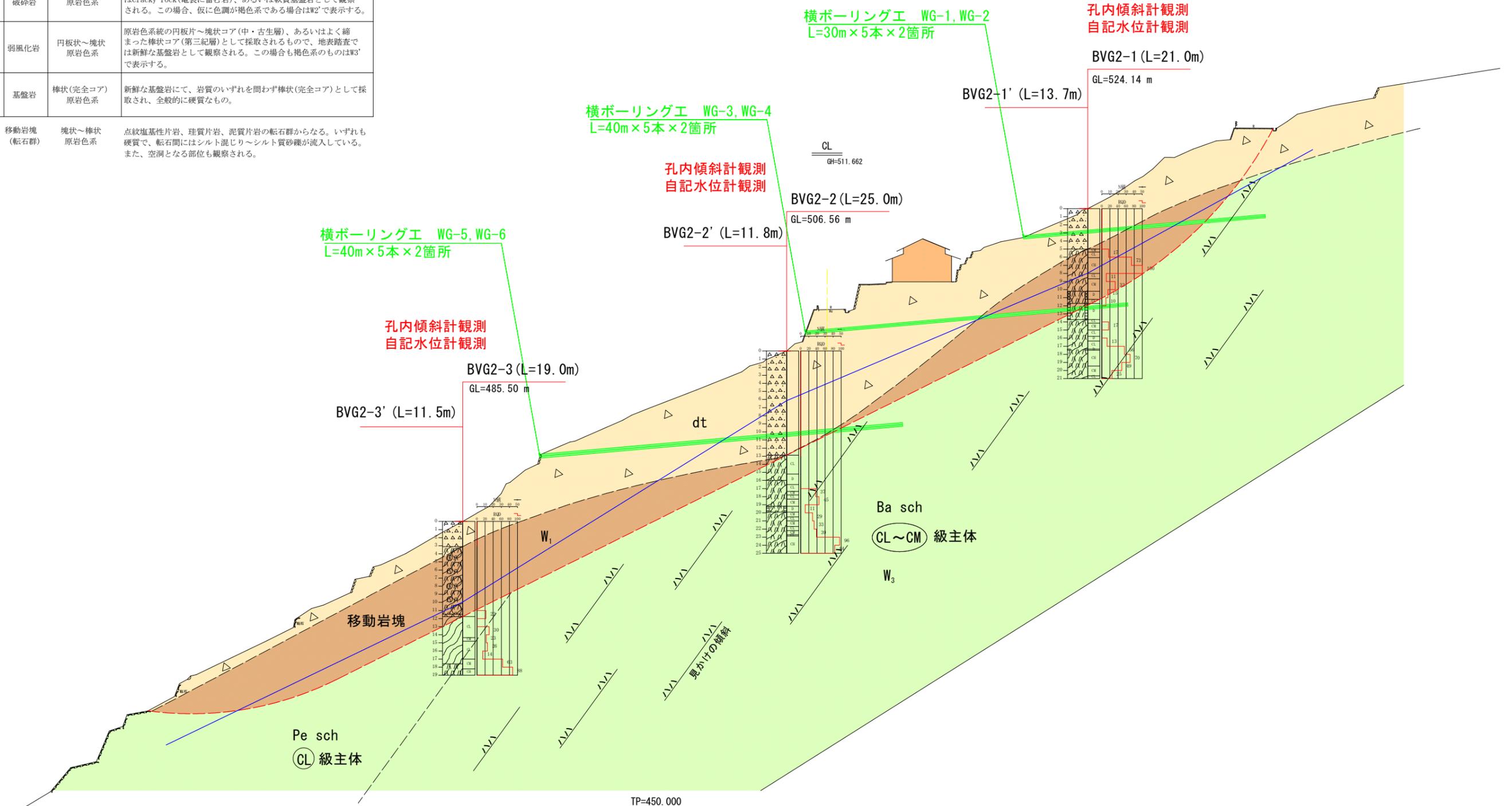
実施設計図面
Bブロック調査計画断面図 Sc=1:500

地すべり地質の区分 (藤原明敏による)

区分	名称	ボーリングコアの形状・色調	構成地質および性状
Dt	崩積土	土砂状 褐色系	いわゆる広義の崩積土にて、礫混じりローム、礫混じり粘土、および硬質粘土・攪乱粘土などの褐色部、色調は褐色を主色調とする。旧期の崩積土はDt2、岩盤中における粘土状の攪乱部はDt1、細片～破片状の攪乱部はDr (Disturbed rock) で表示する。
W ₁	強風化岩	土砂状 原岩色系	原岩色系の粘土・硬質粘土ならびにシルト、および未固結の砂状を呈するもので、粘性土類については「岩組織」を残存し、砂質土の場合は同一の構成土質であることを原則とする。この場合、仮に色調が褐色系である場合はW1'で表示する。
W ₂	風化破砕岩	細片～破片状 原岩色系	原岩色系の細片～破片状コア(中・古生層)、あるいはやや締まった棒状コア(第三紀層)として採取されるもので、地表踏査ではCracky rock(亀裂に富む岩)、あるいは軟質基盤岩として観察される。この場合、仮に色調が褐色系である場合はW2'で表示する。
W ₃	弱風化岩	円板状～塊状 原岩色系	原岩色系の円板状～塊状コア(中・古生層)、あるいはよく締まった棒状コア(第三紀層)として採取されるもので、地表踏査では新鮮な基盤岩として観察される。この場合も褐色系の場合はW3'で表示する。
Rf	基盤岩	棒状(完全コア) 原岩色系	新鮮な基盤岩にて、岩質のいずれを問わず棒状(完全コア)として採取され、全般的に硬質なもの。

※ Dt₂ 移動岩塊 (転石群) 塊状～棒状 原岩色系
点紋塩基性片岩、珪質片岩、泥質片岩の転石群からなる。いずれも硬質で、転石間にはシルト混じり～シルト質砂礫が流入している。また、空洞となる部位も観察される。

横断図
仏子地すべり(Gブロック)



実施設計図面

Gブロック調査計画断面図 Sc=1/500

Hブロック断面図

仏子地すべり

排水量観測

横ボーリング工 WH-1, 2
L=40m × 5本 × 2箇所

孔内傾斜計観測
自記水位計観測

BVH2-1
GH=509.14 m
L = 30.00 m

孔内傾斜計観測
自記水位計観測

BVH2-2
GH=491.47 m
L = 24.00 m

横ボーリング工 WH-3, 4
L=55m × 5本 × 2箇所

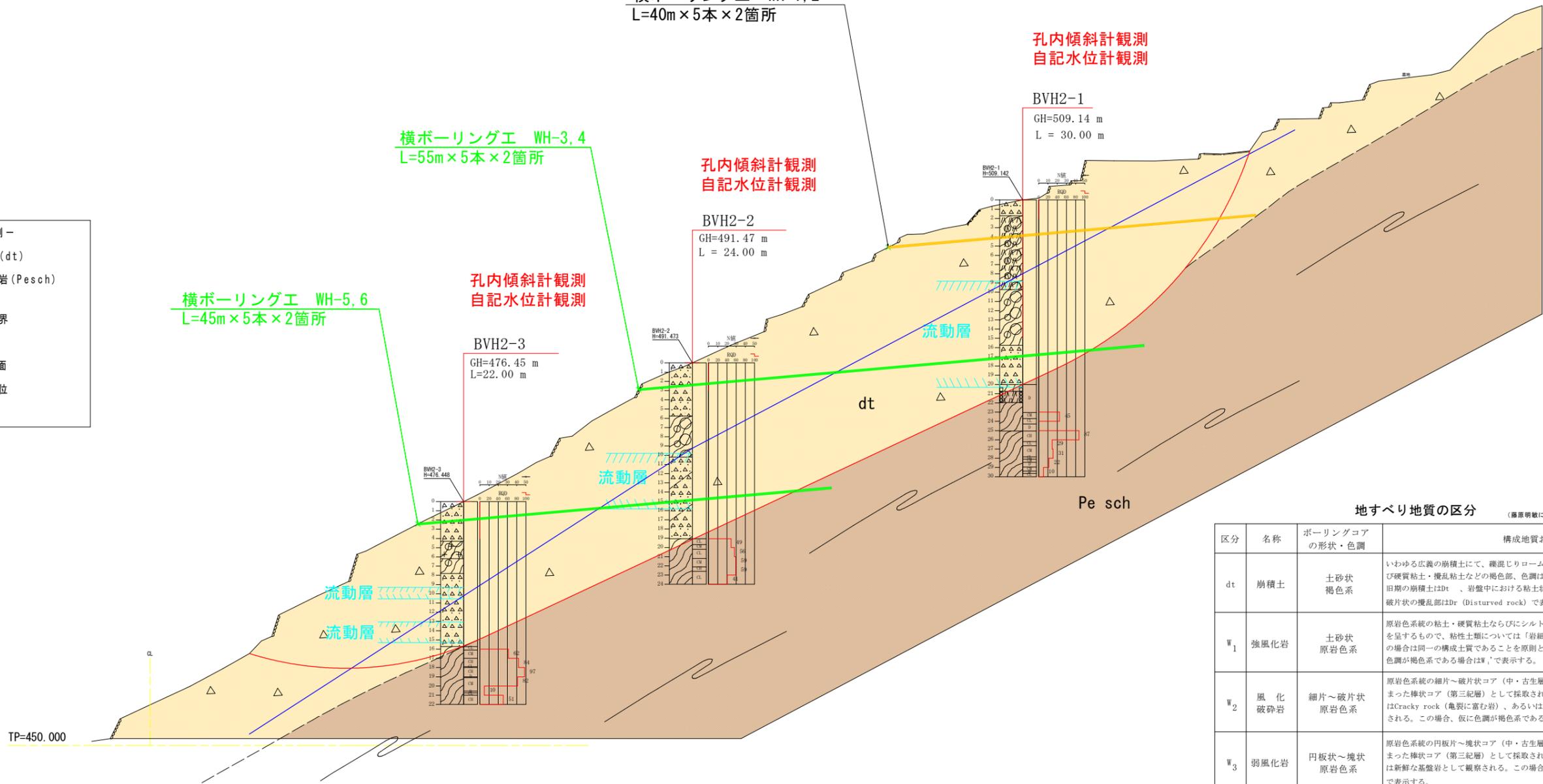
孔内傾斜計観測
自記水位計観測

BVH2-3
GH=476.45 m
L=22.00 m

横ボーリング工 WH-5, 6
L=45m × 5本 × 2箇所

— 凡 例 —

	崩積土 (dt)
	泥質片岩 (Pesch)
	地層境界
	片理面
	すべり面
	地下水位



地すべり地質の区分 (藤原明敏による)

区分	名称	ボーリングコアの形状・色調	構成地質および性状
dt	崩積土	土砂状 褐色系	いわゆる広義の崩積土にて、礫混じりローム、礫混じり粘土、および硬質粘土・攪乱粘土などの褐色部、色調は褐色を主色調とする。旧期の崩積土はDt、岩盤中における粘土状の攪乱部はDe、細片～破片状の攪乱部はDr (Disturbed rock) で表示する。
W ₁	強風化岩	土砂状 原岩色系	原岩色系の粘土・硬質粘土ならびにシルト、および未固結の砂状を呈するもので、粘性土類については「岩組織」を残存し、砂質土の場合は同一の構成土質であることを原則とする。この場合、仮に色調が褐色系である場合はW ₁ 'で表示する。
W ₂	風化 破砕岩	細片～破片状 原岩色系	原岩色系の細片～破片状コア (中・古生層)、あるいはやや締まった棒状コア (第三紀層) として採取されるもので、地表踏査ではCracky rock (亀裂に富む岩)、あるいは軟質基盤岩として観察される。この場合、仮に色調が褐色系である場合はW ₂ 'で表示する。
W ₃	弱風化岩	円板状～塊状 原岩色系	原岩色系の円板片～塊状コア (中・古生層)、あるいはよく締まった棒状コア (第三紀層) として採取されるもので、地表踏査では新鮮な基盤岩として観察される。この場合も褐色系の場合はW ₃ 'で表示する。
Rf	基盤岩	棒状 (完全コア) 原岩色系	新鮮な基盤岩にて、岩質のいずれを問わず棒状 (完全コア) として採取され、全般的に硬質なもの。

実施設計図面

Hブロック調査計画断面図 Sc=1:500